

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

第17回全国障害児学級 & 学校学習交流集会・奈良

子どもの気持ちに目を向けた 子どもからはじまる教育を

1月6日～8日の3日間、奈良市で、第17回全国障害児学級 & 学校学習交流集会が開催され、全国から900人を超える教職員や学生、保護者などが集いました。大障教は、27職場から104人が参加し、組合員の他未組合員の方も多数参加しました。

1日目に開会全体会と記念講演が行われ、2日目は「14のてんこもり講座」、奈良ならではの「歴史フィールドワーク」和菓子づくりを含む6つの文化バザール、17の分科会と2つの基礎講座が開催されました。

3日目は4つの教育フォーラムが行われ、中でも「改訂学習指導要領を考える」フォーラムは会場に入りきれないほどの盛況で、改訂学習指導要領の問題点について学び合い、その押しつけをはね返していくためにも、民主的な職場づくりがカギであると語られました。

集会全体を通して、20～30代の参加者が4割を占め、集会中に組合加入を申し出る方もいて、障害児教育について学びを深め、つながりを広げた熱い3日間となりました。

自分たちもがんばるから、先生たちもがんばって！

開会全体会のオープニングで、障害児学校の卒業生などが集った「ジョイアススクールつなぎ」による創作劇が上演されました。ストーリーは、ロボットの仮面を被った生徒たちが、友だちと豊かな学校生活を過ごす中で、自分

主人公なんだ！と次第に仮面を脱ぎ捨てていくというものです。自分たちで考えたダンスをいきいきと踊る彼らの姿には、強いメッセージと魅力を感じました。ラストの、自分たちも

安心できる関係の中で、

子どもは気持ち解放して育ちにつながる



講演する丸山啓史さん

待ってくれる・話や思いを聞いてくれる・無条件に受けとめてもらえる場など、安心できる関係の中で子どもは気持ち解放し、育ちにつながる。

「問題」の減少が子どもの育ちとは限らない、「問題」の中にも、子どもの気持ちに目を向けることで発達が見える。

記念講演は、丸山啓史さん（京都教育大学）が子どもの気持ちと発達保障の演題で行いました。丸山さんは、学校や家庭、授業中や放課後、休日、そして卒業後の子どもたちの様々な行動、言葉の様子から読み取ることのできる発達の意味を問い直し、子どもからはじまる教育をすすめていく大切さを語りました。

自己肯定感を高めようとして、じつと黙って待っていられたね「順番を守れて立派だね」と教師は、ほめるが、ほめられて嬉しいのは誰か？大人の都合ではめてはいないか？

講演では、主に次のような内容が印象的で、多くの参加者が共感できたと思います。うまくできなくても、

就労に向けた目標から逆算する教育や、「ユニバーサルデザイン」学校スタグダードなど、手法が先にある教育が広がっている。その中で、成長・発達・能力向上・技能獲得など、はつきりした子どもの変化を、教師の成果として求める現在の傾向は、必ずしも子どもたちの良い未来につながるわけではない。現在の評価主義、成果追及主義を問い直すことが必要。

がんばるから先生たちもがんばってください」という彼らからの熱いエールで、お正月気分参加者の背筋も引き締まりました。

このように記念講演からは、学校現場で抱える疑問や悩み、子どもも理解につながるヒントをたくさん得られました。子どもの気持ちに目を向けて、子どもからはじまる教育を、日々の実践の中ですめていこうと改めて思いました。

来年の全国障害児学級 & 学校学習交流集会は、宮城県で開催されます。みなさんで参加して一緒に学び合いましょ！
(教文部：西面友史)



大阪維新の会が、大阪都構想を市民に問う住民投票を、多額の税金前回は32億円をかけて再び実施しようとしています。大阪都構想は、大阪府を廃止して分割し、政令市の権限や財源を、都府に吸い上げ、1人の指揮官知事のもとで、やりたい放題できる仕組みづくりです。2015年5月に実施された住民投票では、66.83%の高い投票率の下、反対票が賛成票を1万741票上回って否決され、当時の橋下大阪市長は政界引退に追い込まれました。しかし、昨年6月に大阪市会が、維新・公明などの賛成多数で、大阪都構想の設計図を議論する法定協議会を立ち上げました。今年の9月～10月に、住民投票を実施する方針です。維新が出した案は、24行政区を五つの特別区にするという3年前に否決されたものを手直しし、四つと六つの特別区に再編する区割り案にすぎません。

1月4日、大阪市内で開かれた新年互例会では、松井知事と吉村大阪市長が、大阪都構想の実現と、万博誘致に、挑戦する決意を語りました。維新の描く、大阪万博は、カジノを中核とする統合型リゾート（IR）誘致とセットであるのは言わずもななく、半年間の「万博」に名を借りて、永続的にカジノの誘致関連事業に税金を注ぎ込むのが狙いです。

「大阪市をなくすな」と3年前の住民投票で連帯した市民団体は、市長と市会議長宛に、大阪市の存続を求める署名にとりかかっています。読売の世論調査昨年11月でも、大阪都構想に反対する大阪市の有権者は47%に達し、賛成の37%を上回っています。

2017年度 大障教本部交渉報告(前号の続き)

宿泊行事の勤務実態に即した「勤務時間の割振り」

児童生徒が就寝中であつても、トイレ介助や体位変換、医療的ケア等の対応で、ほとんど休めない状況にもかかわらず、泊行事当日の朝は8時に出勤するよう求められるケースや、就寝中の指導計画・報告書の提出が求められるケースなどがあることを示して改善を求めました。

教職員企画課は、「引率する職員の行程の始めから行程の終わりまでに要する時間が、休憩時間を除いて1時間30分以上11時間45分未満である日については、あらかじめ11時間の勤務時間を割振り、別の要勤務日に4時間の勤務時間を、11時間45分以上15時間30分未満である日については、あらかじめ15時間の勤務時間を割振り、別の要勤務日を、勤務を要しない日として、それぞれ割振ることができると説明しました。

「教職員の評価・育成システム」の廃止・「評価結果」の賃金リンク撤回

「2~3人の管理職で100人を超える教職員を評価することは物理的に無理がある」「自己申告票を提出しない場合は罰則的に評価を規定している点は、過剰なプレッシャーを与える」などの教職員の意見を紹介し、「教職員の評価・育成システム(以下「システム」)を廃止し、「評価結果」の賃金リンクを撤回するよう求めました。

教職員企画課は、「システム」は「教職員の意欲・資質能力の一層の向上を図ることにより、教育活動をはじめとする様々な活動の充実、組織の活性化を図ることを目的として実施している」(今年度実施した「システム」に関する職員アンケートで)回答された意見も参考に、引き続き「システム」がより良い制度となるよう、充実改善を図っていく」との説明にとどまりました。



あいさつする大障教戸田委員長

た。
大障教は、勤務実態に合った「割振り」がなされるよう、不適切なケースについては、現場の管理職に対して指導を行うよう求めました。



当局を追及する大障教久保書記長

常勤講師と正規教員との均等待遇

今年度の「府立支援学校定数内講師率」が、11.8%に達しているにも関わらず、今年8月の教育委員会会議で示された「教職員数管理目標」が、これをさらに上回っていることを示して、人の確保のためにも、講師の賃金の改善を行うよう求めました。

教職員企画課は「教育職給料表の2級は、教諭の職務の給与とされており、臨時講師に適用することは困難である。臨時的任用職員は、初任給の上限については、平成26年度から教育職給料表の1級の上限を引き上げる改善を行ったところであり、今後とも他府県の状況や府の財政状況等を踏まえつつ、適切な対応に努めてまいりたい」と説明しました。臨時講師(看護師)の賃金改善については、「人事委員会等との調整が必要となるが、何ができるか研究していきたいと考えている」と説明しました。

大障教は、「大阪から人が逃げる」事態に歯止めをかけるためにも、均等待遇のための思い切った対策を講じるべきだと主張しました。



府教委側は室長・課長が出席しました

分会紹介

分会名：大阪北視覚支援学校分会
分会長：横山公美
障害種別：視覚障害
児童生徒数：79人

第16回

どんな分会？：ひとむかし前は、市盲分会としてとても大きな分会でした。しかし、分会を支えてくれた先輩方が退職、転勤され、組合員も減ってきています。組合活動も制限されるようになり、寂しく感じますが、「数は力」と言い聞かせ地道に活動を続けています。分会ニュースを年間4回くらい発行して、少しでも分会の様子が伝わるように心がけています。

分会会議は職員会議の後に位置づけ、月に1度は集合できるように工夫しています。6月には交流会、1月には新年会と飲みながらゆっくり交流できるように企画しています。なかなかみんなが集い、語り合える機会がとれずむずかしいですが、頑張って繋げていければと思います。